

# 【ねがいましては】

令和6年1月7日

KYOWA SCHOOL

第403号

「Aju さん」

時々NHK ラジオで深夜便「明日へのことば」に耳を傾けることがあります。そんなとある日でした。Aju さんというアーティストの方と、恩師のお2人が出演されました。大阪府出身、34歳の女性です。ご本人の表情や作品は右のQRコードからご覧いただけます。彼女は自閉症スペクトラムという障がいを負っています。小さい頃から周りの子たちと同じことができないと悩んでいたそうです。国語の授業では、教科書の文字が3Dのように浮かび上がり、読みにくかったり、給食時には具材の一つひとつを味わうようにしないと食べられなかったり、それを見ていた担任の先生からは、「悪い食べ方の見本です」と、言われ辛かったそうです。（その当時はまだ障がい者宣告はされていません）



そのような生い立ちを経、Aju さんは教育大学へと進学します。そこでは共同で作業する授業が多く、ひとりでの時間が少なく過ごし難かったそうです。入学早々4月の時点で「もうだめかな」と感じ始めていたそんな時に、ある方との出会いがありました。現在は立命館大学スポーツ健康科学科教授、永浜明子さんでした。そこでAju さんは言われました。「ひとりでおったらええやん・・・」

それまでは、口々に「みんなとなかよくしなさい」と言われ続けて育ってきただけに、そのひと言がAju さんを救ったのです。ラジオの中で、アナウンサーの方が永浜さんをAju さんの前で紹介すると、Aju さんはとても恥ずかしそうな表情を見せました。Aju さんと永浜さんが並んで座っていらしゃる姿と、そこへ永浜さんの紹介がされた際、見せたAju さんの恥ずかしそうな表情を思い浮かべた時、私は強くこみ上げるものを感じました。

「出会いなんだなー、Aju さんよかったね！」

Aju さんにとって100%信頼を寄せることのできる存在が、今となりについてくれる……。そのしあわせ感が手に取るように感じられました。彼女は「ひとりでおったらええやん」、この一言で人生の辛さを180度反転することができたのです。そして大学3年生になりました。それでもやはり大学へ行きづらかった時があったそうです。そんな時大学の保健センターへ出向いた際、「発達障害」だと診断されました。当然Aju さんは落ち込みました。その気持ちを紛らわせるように「絵」を描いたそうです。その時かいた絵が永浜教授の目に留まりました。「こんなに上手なんだから、これに描いたらええやん……。」と、スケッチブックをプレゼントされました。それが今のAju さんの画家としてのスタートになったそうです。

当初の彼女の絵は暗いものが多かったそうです。なぜなら「障害」ということばに恐怖心を抱き、これから自分はどう生きていくのだろうと悩み続けたそうです。今まで「健常者」「障がい者」と自分がその立場になっていないときには別に気にすることもなかった言葉が、突然大きな重しのように立ちはだかりました。その時はどうやって死ぬかということだけを毎日考えていたそうです。

永浜教授はそんなAju さんを見、もう一冊、スケッチブックを用意し、文字で会話を始めました。そして最初に書いたことばが「あなたはあなたであっていいんだよ」でした。そのことばが書かれたスケッチブックをAju さんは毎日「お守り」のように大切に持ち歩いたそうです。永浜教授はご自身の研究室へこられたAju さんに毎日のように「来ただけで100点」をプレゼントし続けました。そして研究室から出、授業に行こうとしただけで130点だったり……。

永浜教授は、「Aju という一人の女の子が大学3年の時、突然『障がい者』というレッテルを張られた。それは周りがそう決めつけただけのことで、Aju 本人はちっとも変っていない。だからAju はAju らしくこれからも生きていけばいい、それだけです。」と発言されました。

今回のAju さんのように、「個」をしっかりと見つめてくれる「ひと」、「個」をしっかりと認めてくれる「ひと」が障がい者ではなくても子ども一人ひとりには絶対に必要だと強く感じました。

どんなに多数決で99対1であっても、周りからどんなに批判されても、「あなたはあなたであっていいんだよ」と、すべてを許容してくれる「ひと」が必要です。最もふさわしい方、それは紛れもない「お母さん・お父さん」です。

このままテストの点が悪いままだったら「どうしよう」。このまま周りの子たちとコミュニケーションを上手に取ることができなかつたら「どうしよう」。「このまま、このまま……。」と、不安に駆られっぱなしのお母さん、お父さんはいらっしゃいませんか？

私の勝手な判断ですが、かなりいらっしゃると思います。親の「どうしよう」は、必ずと言ってよいほど子へ伝染いたします。子ども毎日が「どうしよう」なのです。だからたった今よりお母さん、お父さん、「どうしよう」を追いつきましょう。我が家は我が家らしく和気あいあい。「あなたはあなたらしくあっていいんだよ……」今ここにいてくれるだけで、100点。

あなたがあなたらしく「のびのび」生きてくれることが、私たちの一番の「しあわせ」なのです。だから私たちも「のびのび」人生を楽しむつもりです。よろしくね！